

## 研 修 ② 座 談 会

日 時：令和7年9月25日（水）13：30～15：00

講 師：大河原自作視聴覚教材制作グループ

会長 大脇 賢次 氏

服部 和憲 氏

佐藤 富雄 氏

テーマ：「大河原自作視聴覚教材制作グループの活動について」

座談会出席者：我妻 克哉（白石市）

春日 優伽（角田市）

小笠原 あずさ（蔵王町）

佐藤 深奈美（七ヶ宿町）

吾妻 晃次（大河原町）

岡本 健志（村田町）

高橋 秀之（柴田町）

大宮 桃々花（柴田町）

佐藤 真菜利（川崎町）

荒井 優作（丸森町）

山田 純士（仙南広域）

佐藤 雅俊（大河原教育事務所）

玉淵 博之（仙南広域）

## □□ 本教材グループの活動について □□

### ① 活動の目的 (会規約を拡大解釈したもの)

仙南広域圏の地理、歴史、文化、教育、伝統行事、民俗芸能などを主な素材とした地域密着の視聴覚教材を制作し、生涯教育や学校教育に貢献することを目的とする。

### ② (質問 メンバー構成について) 社会人 教師 教師OB (会員数 7名)

### ③ 実際の活動

## **地域資源 (教育資源・教育素材) を掘り起こし、教材化すること**

・具体的には グループの会員が、それぞれ毎年1作品程度の自作視聴覚教材の制作 を目標に、視聴覚教材センターのアドバイスのもと、月例会の開催や外部研修会等を通じて、制作に関する情報交換や知識と技術力向上の研鑽を随時行っている。

また、会員の作品は「仙南ふるさとコミュニティ・メディアGP」や、「全国自作視聴覚教材コンクール」へ出品している。

### ○ (質問 自作視聴覚教材の種類についてとの関連)

・ (メディアの種類) ビデオ スチルビデオ スライド 紙芝居

・ (教材の種類)

【学校教育】 理科教材 社会科教材 道徳教材 総合的な学習の時間教材  
生活科教材 その他

【社会教育】 郷土の地理や歴史に関する教材 郷土の偉人の伝記的な教材  
郷土の伝統工業や伝統芸能に関する教材  
その他

### (近年制作した教材の一部)

- ・ (社会教育) 私たちの郷土を走っていた幻のSL「軽便鉄道仙南温泉軌道」
- ・ (学校教育) 中学校社会科・身近な地域の歴史「水源を求めて」
- ・ (社会教育) 「白石 水めぐる城下町」
- ・ (学校教育) 中・高等学校歴史科「戊辰戦争と角田」
- ・ (学校教育) 小学校4年社会科「船岡用水と六沼干拓」

### ○ (質問 自作教材を作るようになったきっかけ・記録を残すことにかける思い ・記録を残すことに、意義を感じているのか との関連)

- ◎ 学校教育の中で、地域学習に郷土教材の作成が必要だと強く感じている
- ◎ 地域で消えゆく歴史や文化を残す必要を強く感じている

### ○ 学校教育の教材作りで心がけていること

- ・ 学校教育では、社会科、道徳、志教育等の地域学習単元の指導の充実を狙っている。  
(小学校) 単元「郷土を開いた人々」「町の移り変わり」「学校の歴史」「町の産業」  
(中学校) 単元「身近な地域の歴史」「郷土の偉人」「職業教育」

※教育実践に、即対応できる教材を目指しており、教材に指導案を添付して制作している。

(課題) (質問・学校教育との連携についてとの関連)

- ・地域教材は、学校の実態に応じて使われてきた。しかし、近年は忙しい、面倒だという理由から、教科書だけの指導になる場合が、少なくない。(特に社会科・道徳)
- ・そもそも、担任の教師が、地域教材の存在を、認識していない。  
教材センターが各教委や学校や公民館と連携を図ろうと努力されているのだが。  
教育現場では、郷土(地域)教育に対する必要感が弱い。  
(防災教育を除いて)学校の周りの土地の高低 土地の歴史(旧河道、自然堤防)
- ・防犯の意識の高まりからくる撮影や取材の難しさ。(社会教育と共通)

○ 社会教育の教材作りで心がけていること

- ・社会教育では、人々の地域に対する興味・関心の向上を図るため、郷土の伝統・文化・歴史・地理的な特徴などを題材に教材化を行っている。  
(地域)「古地図から探る白石の謎」「私たちの郷土を走っていた幻のS L 軽便鉄道山南温泉軌道」「ふるさと柴田の桜」「地形 防災」  
(歴史)「戊辰戦争と角田」「古代東北戦争」「大名と将軍」  
(文化)「地域のかぐらや舞踊」

(課題)

- ・公民館などで郷土教材等を使用されることもあるが、利用者が少ない。  
以前は、公民館等は、新しい文化の発信など楽しみがあった。現在は、多くの楽しみが、ネットから湧き出る。
- ・地域の歴史や文化を守ることが、自分たちの生活の豊かさに繋がるという意識が薄れている。地域そのものに対する関心が薄い。

④ 地域教材を作っている視点での意見や要望

○ (質問 地域や行政に期待することとの関連)

- ・郷土教材制作に当たっての社教主事さんと教材グループとの連携やバックアップを行うことが出来ればよいのですが。

(理由) ・郷土教材の制作を手がける場合、地域や地域の施設等の取材や調査が必要になります。そのようなとき、不審者に思われることが、今後増えてきます。そうならないような連携協力が必要だと考えます。例えば、社会教育活動を行っているというお墨付きを、社会教育主事さん(生涯学習課)から出して頂けると助かります。

また、社会教育主事さんが持つ、地域の幅広い情報の中、地域資源(〇〇の歴史的な行事がある。教材制作したらどうか。など)の共有の場を持てればと考えます。

- ・後継者を育てたいので、地域の人材を紹介してほしいです。  
(グループの存続にかかわる最大の課題 会員の高齢化)

**荒井（丸森町）：**

大河原自作視聴覚教材制作グループの方々3名にお越しいただきまして、お話しをさせていただきます。今回はレジュメをいただいておりますので、そちらに沿って、教材グループの方からご説明いただいて、それに対して話をしていくという形で進めたいと思います。よろしくお願いいたします。

**大脇：**

私は村田一中に、昭和56年に勤務しまして、そこで家庭訪問をしたんです。その時に子供が、コンピューターを使っていました。昭和56年の段階で、ベーシック言語を手打ちしてインベーダーゲームを作っていました。それで、「いやあ、すごいなあ」と思っていました。ところがあつという間にAIの時代が来たっていうのが、びっくりしています。時代の変化についていけない、それでもついて行こうと頑張っている、私でございます。

まず、本教材グループの活動について、会則の拡大解釈をしました。仙南広域の地理・歴史等を主な素材として、地域密着の視聴覚教材を制作します。生涯教育や、学校教育に貢献することを目的として活動しております。質問をいただいたメンバー構成については、社会人、教師、教師OBが主です。会員数は7名。平均年齢は65歳以上です。何とかしたいと考えてます。メンバーを募集のチラシを配布しましたが、ぜひ我々が困っていることを伝えていただき、メンバー募集にご協力ください。

実際の活動については、教育資源とか教育素材などの地域資源を掘り起こして教材化します。具体的に、グループの会員が年1回ぐらい素材を教材化する活動をします。そして、教材センターさんからのアドバイスなどを受けながら月例会や研修をしております。年1回行われる、仙南広域のコミュニティメディアグランプリや、全国自作視聴覚教材コンクールなどに出品しております。

質問の2つ目、教材の種類は学校教育と社会教育に分けてお話しします。学校教育は理科、社会、道徳、総合的な学習の時間等が多いです。社会教育の場合は、郷土の地理、歴史、郷土の偉人、伝記、伝統工業、伝統芸能などです。近年制作した教材の一部を紹介しますと、社会教育が私たちの郷土を走っていた幻のSL「軽便

鉄道仙南温泉軌道」。学校教育は中学校社会の身近な地域の歴史「水源を求めて」。これは角田のことをやっています。社会教育「白石 水めぐる城下町」。学校教育、中学校の歴史「戊辰戦争と角田」、さらに小学校4年生の「船岡用水と六沼干拓」というようなものを最近手がけております。軽便鉄道の話は、制作した佐藤さんからお願いします。

**佐藤（富）：**

視聴覚教材グループに入れていただいてまだ浅いんですが、何か自分で作ろうとした時に、私が住む村田の場合ですと、紅花とか村田の宗高、それから蔵。大体今までに出し尽くしてほとんど題材がありませんでした。その中で、「軽便鉄道」。これは大河原、村田、遠刈田まで、だいぶ前にスライドで作った方がいました。それ以降、誰もお作りになられてないということで、いわゆるリニューアルという形でいいのかなと思い作りました。結論から言うと作品は43分ほどでまとめたんですが、資料集めに8割、後の2割が動画やナレーションを作ってという形で、労力がかかりました。どういう資料があるのか、自分で色々調べたのもあるんですが、今回1番ご協力いただいたのが、蔵王町生涯学習課の成澤さんという方に大変お世話になりました。あと、村田歴史みらい館の館長さんから貴重な資料をかなり出していただきました。作るのは自分ですけども、そこに至るまでにもすごくその町のバックアップがありました。それがなければ作れなかったなと思っています。これからもまだ色んな分野に挑戦したいと思っておりますが、これからも町、特に生涯学習課の方々にはご協力いただければと思っていますところ です。

**大脇：**

続いて、「白石 水めぐる城下町」を服部先生が作られたので、画像を交えて解説をお願いします。

**服部：**

私が作ったのは、デジタルコンテンツという種類でした。皆さんにも見ていただいた映像を1回導入で見て、その後途中で止めて、またそこで勉強するみたいな形にしています。それから、先ほどお話がありましたが、もう今はほとんど電子媒体で済むような世の中になりましたが、逆にこれからは紙媒体も大切なんじゃない

かなと思っております。私たちの場合だと、紙の資料も作って一緒に活用していただくというような形にしています。今は学校でも社会教育の現場でも、だいたいスマホで済んでしまいます。紙媒体をどう活用していくかが大切と考えています。電子媒体と紙媒体を合わせて活用してもらうように考えています。先日見ていただいた「水めぐる城下町」は社会教育の教材で、今日見ていただくのは、学校教育向けに直したものです。違いは、課題をタイトルに表示し、それについて深めていく使い方ができるようにしています。作成するときは授業や講話で活用しやすいよう主にパワーポイントに入れています。音声は無料のAIか、イントネーションを確認し必要に応じて肉声で組み合わせて入れています。

今日見ていただくのは、今回全国で入賞させていただいた奥州街道の動画です。白石市の広報に動画を見られるように2次元コード付で掲載していただきました。そういった市町さんとの連携がやはり大切かなと思います。「水めぐる城下町」も、教材といっても、やはり活用されなければ意味がないので、作って終わりというわけにはいかないと思うんです。全国で入賞したことで、見ていただくきっかけになるかなと思います。「水めぐる城下町」も、それについてのお話をお願いされたり、相当見ていただくことができたので良かったかなと思っています。ただ、やはり使っていく中で「ちょっとこれ難しいよね」と話があったので、じゃあ学校教育の教材に落とした場合は、どんな感じになるのかなということ、今作っています。市町との連携、社会教育主事の皆さんとの連携も大切にしています。今日用意したような紙媒体とも合わせて活用していくことがこれからますます大切になっていくのかなと思っています。

～自作教材「白石歴史シリーズ1 古地図から探る白石の謎－奥州街道と城下町－」を視聴～



**服部：**

謎解き風で、藩政の地図を今の空中写真と比べて、どこがどんな風になっているんだろうかというところにつくった短編ものです。先ほどお話ししましたように、まずパワーポイントで絵を入れることが多いです。先ほどの空中写真は、地理院地図を使っています。それから、同じように河岸段丘の説明があるんですが、陰影起伏図といって、高低を表す地図も地理院地図から取ることができます。それをクレジットのところに使わせてもらいましたという形で書けばOKです。あと、白石の文化財担当の松田さんから赤色立体地図という、精度の高い高低差を表す方法を教わりました。そういった知識をお持ちの方は、それぞれ市町にいらっしゃると思いますので、そういった方から教わっていただくと良いかなと思いました。

**春日（角田市）：**

教材は、1人が1つを作るのが一般的でしょうか。それとも何人かで、1つの作品を作るのが一般的ですか

**大脇：**

昔、会員が多い時は、グループで作る時もありましたが、今は会員が少ないので今年作ったのは2人だけです。去年はこの3人のみ。例えば、同じ町在住の会員が2人とか3人とかいたら、一緒にこのテーマでやろうよっていう風にするんだけど、みんな課題が違う。持っている課題が違うから、一緒にやるのは非常に難しいです。

**服部：**

グループで共同して作るわけではないんですけども、私は白石なので、白石街道研究会というグループで奥州街道の作品を作ったり、水路の方は、白石水路研究会という名前のグループで制作したりすることもあります。私は古文書

とかはあまり読めないので、古文書が得意な方に入ってもらったこともあります。資料をいっぱい読み込める人に入ってもらったり、監修してもらったり。私の作品自体はグループです。

**大脇：**

実際には、月1回集まって作品を話し合う機会があります。作品を見たり、文書を見たりして、話し合っただけで意見を出し合い、作品が練り上げられて、良い物にしていこうということを月1回やっています。



**高橋（柴田町）：**

大変失礼なんですけれども、ボツになるようなことってあるんですか

**大脇：**

あります。色々なボツがあるんですが、対人関係があるわけですよ。要するに取材に行って、やっぱりこれ作るのやめてっていうような方がいます。今取材しないと、あの人の技巧は忘れられてしまうからと、教育委員会から依頼されて取材した方から「俺はそんなことやんだ」と断られた。「もっと彫刻のこと勉強して来なさい」って言われた。本を読んで勉強したが2回目もダメ。3回目で「しょうがねえな」ってなった。だから、1つの教材を作るにも、対人関係の場合は、結構あります。いろんな対人関係があるんで、ボツになる場合はあり得るということです。

**荒井（丸森町）：**

画像を編集する時の知識や技術は、どういうところから仕入れていますか

**大脇：**

技術的なことは、私の場合は本を読んでいます。ソフトが最初からついていて機械を買って、付属の教材を読んで最初から勉強して、やったってところもあるけど、教材センターの職員さんに動画の変換等教えてもらって本当に助かって

います。非常に教材センターの方々にはお世話になっています。あと、やっぱり自分で勉強する。

**服部：**

昔は講座をやっていただいたりしていましたが、今はなかなかそういう余裕はないんですか、定期的に教材センターさんで、ビデオ講座とかやっていますよね。

**山田（仙南広域）：**

ご要望をいただければ、日程調整の上やりませう。今年度、ビデオ講座は予定がなかったんですけども、来年度以降に向けて、また検討したいなとは思っています。

**佐藤（富）：**

あと、やっぱりですね、ゼロベースからパワーポイントにしる何にしる、習い始めると作るまでは時間かかるんで、ある程度現役時代に、仕事かなんかで最低限度は使いこなしている経験が土台になって、この教材グループに入りました。そんなのが大体スタートになります。

**佐藤（深）（七ヶ宿町）：**

服部先生の作品で、学校教育で使いやすく改良されたというお話を聞いて、私だったら否定的な意見をされたら、腹立たしい気持ちになります。ベストだと思って仕上げた作品に手を入れるのは、勇気のいることなんじゃないかなと思います。当初からずっと柔軟に対応してきているのか、最近できるようになったのか教えていただきたいです。

**服部：**

元々私は学校の教員だったので、昔は紙の資料をいっぱい使いますよね。あの頃、興味関心を高めて、理解を促して、感情に訴える教材が「視聴覚教材」だと言われてたんです。その目的を達成するためには、他人のものは駄目ですけども、自分で作ったものは子供たちとかそういうものに役立って、理解を得ることに繋がればいいかなと思っています。自分で作ったものについては、どんどん使いやすいうようにしていった方がいいなと思っていますし、活用していただくとうれしいなと思っています。

**大脇：**

続いて、いただいた質問の「自作教材を作るようになったきっかけ」、「記録を残すことにかける思い」「記録を残すことに意義を感じているのか」についてです。まず学校教育のこと

を言うと、「学校教育の中で、地域学習に郷土教材の制作が必要だと強く感じている」ということになります。私は、かつて角田市の西根小学校に勤務していたんですけど、あそこにはため池がいっぱいあるんです。ため池がなぜいっぱいあるのか。こんなことは教科書では教えてくれない。角田の社会科の補助教材はあるんですが、角田用水のことしか書いてないんです。だから、西根の場合は、ため池のことをやるのがいいと考えました。ため池は、どのように流れて、水稻の栽培に使われているのか、実際ため池へ行って、田んぼに行って、社会科の授業ができるんです。僕が強く感じたのは、1番子供たちにいい教材というのは、地域教材なんだっていうのを自覚して、その時に作ったんです。次に、「地域で消えゆく歴史や文化を残す必要性を強く感じているか」。これはもう、みんなそう思っていますが、佐藤さんから話してもらおうかな。

**佐藤（富）：**

軽便鉄道の話で言うと、一定以上の年代の方であれば、昔軽便鉄道が通っていたことはほとんど分かりますけども、どこを通ったの、どこに駅があったの、っていうのはなかなか知らないかな。私も当然知らなかったんですけど、これを調べるに当たってですね、大河原から遠刈田までの27キロほど辿ってみました。国土地理院の昭和6年の地図とかを紐解いてみました。例えば遠刈田のさんさ亭が終着の駅だったことや、大河原の駅は、今は呉服店になってますとか。どこを実際線路が通りました、どこの場所で事故があったとかですね。村田農協があり、古い建物で今もあるんですが、何だろうなと思っていました。調べたら、それすなわち当時の仙南温泉軌道という軽便鉄道の本社があったのが村田農協で、その建物が未だに取り壊さないで100年近く前に廃業になった軽便鉄道の駅舎の一部とかですね。そんなのが分かってきて、DVDにして皆さんに配ったら全然知らなかったと話をいただいたり、たまたまお会いした蔵王町の町長さんから、「良い作品ですね。うちの父も軽便に勤めていたんですよ」と声をかけていただき交流が広がったりしました。1つのものを作るに当たって、いわゆる時代に残すというとオーバーですけども、意外と知っているつもりで知らないような身近な歴史の痕跡と

言いますか、そういったものが今回紐解いて、なおかつ作って、広く皆さんに知っていただくことができたかなと思ってます。

**荒井（丸森町）：**

記録を残すということに関しては、軽便鉄道やその土地のため池がたくさんある理由とかそういうこともあると思うんですけど、民俗芸能とかそういうことに関するものっていうのは作成されていなかったか。

**大脇：**

民俗芸能に関しても、かつて及川先生が作られましたけど、これにもいっぱい書いてあるんですよ。大河原の金ヶ瀬で、「小山田やすとこ」という民俗芸能を題材に3年前くらいに作りました。15年ぐらい前に柴田町の社会教育主事の方に、神楽のビデオを編集というか再編集というか、ビデオが教材センターにあったんですよ。教材センターにあったものの、復刻版を作ってほしいって依頼を受けたんです。そういう文化的な活動もやっております。

**荒井（丸森町）：**

丸森町の方でも民俗芸能団体の方が記録を残そうと映像を撮って教材センターの方に来て作ったみたいなんですけど、テーマに沿ったような取り方ではなく、踊ってるのをそのまま撮っただけだったので、もうちょっと編集の仕方があったんじゃないかなとか話がありました。編集がなかなか大変なのかなと思ったことがあったので聞いてみました。

**服部：**

記録とか、年中行事とかですね、ちょっと消えていくようなものは撮ってきたんですけども、ただ、時代が変わってるので、変わっていくのは仕方がないのかなっていうところもありますし、人も減ってますよね。そこから何を学びたいか。「伝えたいふるさとの心」。この教材を見ることによって、昔の人々は何を願って、どんな活動をしてきたのか、その辺の心が伝わっていけばいいのかなと思っています。なかなか昔のまま、そのままを今の者に伝えるっていうのも難しくなってきたかなとは思っています。だから、「燃え尽きた灰を崇めるよりも炎を受け継ぐことだ」って言葉がありましたけども、その中身の心ですね。その辺のところが伝わって、じゃあ、自分たちの世代はどうすれば良いかみ

たいなことを考えていただくきっかけになればいいかなって感じはしています。

**大脇：**

それに関連して、もう30年にわたって教材センターの方に古い教材があるんです。その古い教材が大体オートメディア、TPであったり、ビデオであったり、スライド、アナログであったりするんです。だから、非常に画像が劣化しているんです。もし、このグループが大人数いて、そういうものを復刻して、もっとバージョンアップして、今の映像で作り替える。そういうことができれば、もっと、過去30年前にあったものがちゃんとした教材として提供できるんじゃないか。そういう方向の道も実は価値があるのではないかと私は思います。ただ、この団体が20人とか30人とかいたらの話です。だから、皆さんの協力をお願いしたい。

**荒井（丸森町）：**

他の市町でも、VHSやベータとかもあるので、そういったことができるといいんですけどね。やっぱりやる人がいないと、なかなかやれないというのがありますね。

**高橋（柴田町）：**

歴史関係とか、考古とか民俗とかが多いと思うんですけど、史実のチェックは最終的に皆さんがやっているんですか。

**大脇：**

私の場合は、結局本です。本を読んで、もう少し裏を取ろうと思ったら、本の後ろを見ると本の名前が出てくる。その本を検索すると、大体今はパソコンでヒットするんです。見ることができなかつたら、買うしかないんです。お金は要りますけど、日本の古本屋で古本を買うことができるんです。それを入手して…というのを芋づる式と言います。芋づる式に裏を取る。そういうようにやっております。そこまで普通はやらないんですけどね。

**服部：**

私の場合は、白石市史とかの出版物。クレジットタイトルに必ず入れることにはなりますけど。それから、各市町には文化財担当者がいらっしゃるんですよ。出来上がったときは、文化財担当者のところにお邪魔したりすることがあります。この前も文化財担当者に「こういうのを作ったんですがいかがでしょうか」と、アドバイスを頂きました。根拠をはっきりさせてお

くことが大事かなと思いますので、本から取った場合でも「〇〇の本です」とか。私が怖かったのはAIとかなんですね。最初の頃にこれは信頼できないなというものがあったので、今はあんまり使っていないんです。音声とかにはAI使えますけども。しっかりと自分で調べたもの。人から聞いたら「〇〇さん」とか「郷土史家の〇〇さん」のインタビューです、みたいな形はクレジットに入れて出所がはっきりするようにしてます。ただ、いろいろなご意見がありますのでね。



**佐藤（富）：**

1つの事象であれば、最低3つぐらいの文献で見て、年度、年月が全部同じかどうかは調べます。市町村が出しているものでも微妙に違ったりするので、それは県を見るとかですね。そんな感じで調べていくこと。それから、少なくともネットの情報はそのまま使わないことですね。それは当たり前なんですけど、基本ですね。それからもう1つは、いわゆる著作権には気をつけないといけない。これはいろはのいですね。そんな風に思って作ってます。

**服部：**

だから教材でも著作権フリーということを入れてあります。使ったんですけど、著作権フリーですよと。

**高橋（柴田町）：**

ちょっと歴史をかじったものからすると、いろいろな方がいて、史実以外で想像のものは伝えられない。あくまでも史実しか伝えられない。歴史家はそういうものなんですよ。だから、その辺で一旦出した作品について反応が結構出してしまうことがあるかなと思います。ここは違うんじゃないとか、私の研究ではこうだとか。そういう反応が今までありましたか。

**大脇：**

今までは幸運にもないです。私は今、古代の東北についてやっているんですけど、六国史を大旨参考にしていると。この物語は大旨六国史を基本にしているという言い方をして、物語で逃げて。いろんな本によって書いてることが違うこともあるから、物語として今回の作品を制作中なんです。

**佐藤（富）：**

ちょっと似たような感じですね、「線路が昔ここを通ってた」ということでDVDを作ったんです。そしたらある方が、「親父から聞いてるのはそこではなくて、もっとずれてる所を通ったはずだ。だからあのDVDは違うよ」という話はあったんです。でも、国土地理院の地図を取り寄せて、それには当然ながら線路が入ってますので。国土地理院が間違っただけで、国土地理院の昭和6年の地図に従って表してますので、それに則って作りましたという、抗弁と言うとオーバーですけども、お話をしたことはありますね。



**服部：**

大体はいろいろご意見をお持ちの方がいるんですけども、快く見てですね、「そういう説もあるんですね、勉強になりました」みたいな形で終わることが多いですね。だから、かえって勉強になります。社教主事の皆さんの方がいろいろな方とお付き合いされてるから、あると思うんですけども。お互いに勉強になるな、みたいな感じでした。そんなに「これ直せ」ということはなかったです。学校教育の場合は、元々副読本や指導要領などがありまして、ねらいに沿った資料がありますから、学校の場合はあんまり問題になることはないと思うんですが、社会教育の場合はいろいろご意見があって勉強になります。

**佐藤（富）：**

結局そこまで真剣になって見てくれているんだなというありがたみはありました。意見を言ってくくださった方には。

**大脇：**

YouTubeとかで、わざと炎上させるために拡大解釈されて、これはいけないのではないかなというのが出ると怖いと思います。

**服部：**

ファクトチェックもそうですが、フェイク画像なんていくらでも作れるようになってきますよね。これとこれで教材にしようと言って作っても、やっぱり事実と違ったものが出てくることはあると思うので、リテラシーと言うんですかね、先ほどお話をいただいたようなところは私たちも勉強しないといけないと思います。今、自分で感じてこれだと思うものしか扱わないという形になってます。

**玉淵（仙南広域）：**

作り方として多分、教材グループは編集者だと思うんです。編集者は、編集者の目線で編集する役割の人。なのではっきり言うと、正しいか正しくないかではなくて、こういう視点で作りましたという編集者の意図を伝えるべきもの。それが作品。それが完全史実に基づくものである方がいいんですけど、編集する方の持っている感性や「こういう説があるんだ」「こういう風に考えられるんだ」ということを1つの案として提案することが作品になるのかなと思います。教育の現場でも教科書や我々が正しいと思ってたものが全然違ったこともあるわけです。学者がそういう風に言って、編集者が教科書という形で編集をしました。だけど時代とともにやっぱりその解釈が変わって「こうではなかったのではないか」「むしろ全く創作されたものだ」みたいなところもあるわけです。この辺りは大きく捉えれば、お互いにいろいろな考え方を持って、「私はこう考えてるけど、あなた方はこう考えてるんですか」「こういうこともありますね」とお互いに切磋琢磨ではないんですが、学習の場、興味・知的好奇心を高めていく材料になるとよりいいのではないかなと思います。正しい、正しくないということは確かに大切なことだとは思いますが、こういうことを次の世代に残したい。それに対して、このときに編集したのはこうだったけど、実はこうい

う説もあるんだよと。別のそういうものがあった、その事象に対して皆さんが将来にわたって、興味を持って、地域のアイデンティティみたいのにつながっていく風な作りになってた方がいいのかなと思います。答えを1つ出すということでもなく、それを提案していくことが自作教材の持つ意義なのではないかなとも感じます。

**服部：**

学習のねらいは「課題解決」だと思います。視聴覚教材は1つの手法なので、課題解決するためにこういう視点もあるんじゃないかと、お互いにその道を見つけていくのが学習なのかなとも思います。楽しく学べるといいなと。

**大脇：**

社会教育の教材づくりで心がけていることについて、学校教育の場合は単元学習です。単元の指導の充実を狙って、教育実戦に即対応できるような教材を目指して私は作っています。指導案を必ずつけて教材を制作することが大切だと考えています。課題は、地域教材は、学校の実態に応じて使われていますが、近年やっぱり忙しいとか面倒だとか、そういう理由で、教科書だけの指導になる場合が少なくないです。特に社会科は資料が大事ですが、教科書だけの資料では面白くないし、ましてや地域のことをやる場合、教科書では指導ができません。でも学校の実態に応じて指導するというので、教科書だけでもOKということなんです。

次に、教師が地域教材の存在を認識していない。要するに、視聴覚教材センターさんが一生懸命、各教育委員会などと連絡を取ったりしているが、実際の学校現場では、視聴覚教材センターが言っていることは二の次になりがち。社会教育は人々の地域に対する興味関心の向上を図るものですが、地理的・歴史的な地域を勉強することが、町民・市民の役に立つかどうかは、どちらかという切り捨てられてしまう場合があります。要するに、地域の歴史や文化が自分たちの生活の豊かさにつながる意識が薄れている。課題の方に入りましたが、地域そのものに対する関心が薄くなっていく。地元に入ってきた方々は地域に対する関心は薄いけれど、そこに住んでいる方も関心が薄い方が増えているのではないかと。地域をなんとかしようという服部先生のような活動は大切だと思うんです。そう

いう活動が心を動かす。我々が作る教材よりも、協力隊のような活動が大切だと思う。郷土教材制作にあたって、社教主事さんと自作教材制作グループとの連携ができれば欲しい。郷土教材の制作を手がける場合、地域の施設等の取材や調査が必要になります。そのようなとき、不審者に思われることがないような連携・協力が必要だと考えます。例えば、社会教育活動を行っているというお墨付きを社教主事さんから出していただけると助かります。また、社教主事さんが持つ地域の幅広い情報などを共有する場があればいい。後継者を育てたいので地域の人材を紹介してほしい。あと、例えば仙台市の場合は教材制作費が出るんです。活動に対する頑張っってねという思いやり予算みたいなものがあったらいいな。

**荒井（丸森町）：**

視聴覚教材センターさんと定期的に打ち合わせされてるということがあったんですけど、どういったお話しをされてるんですか。

**山田（仙南広域）：**

こういう機材買いましたよとか、撮影に活かしますよという情報提供をしていました。作品づくりについては、編集のやり方とかを共有させていただいてましたが、どういうテーマでというのまでは入れていなかったもので、今後そういった面でも連携できたらなとは思っています。

**服部：**

技術的な指導を教材センターさんにいただいていますし、いろいろ相談に乗っていただけるので、各市町でも教材作りなんかで視聴覚教材センターさんに相談されるといい。

**大脇：**

例えば、愛知県の岡崎市とか、山形県とか、地域教材は学校教育に直結するという考え方がある。岡崎市の教育委員会から何十万とかお金が出て、活動して1本の教材を作り上げる。だから機材も新しいし、人材も団体でやるので、いい作品をボコボコと作るんです。作っただけじゃなくて、学校のカリキュラムの中に入るので、非常に有効なんです。教材を作りたいという人間がいたら、市町村レベルで予算を組んでもらえたら1番いいんじゃないかなと。

**服部：**

これからの子供たちに大切なものは、やっぱり郷土愛じゃないかなって。ふるさとを愛する心を持っている子というのは、自分で考える力が育っていくということなので、大切にしたいなと思いました。ふるさとのことってあんまり分からないところがあるので、地域の教材1つ1つを当たっていくと、当たり前だったことが新しい目で見えることがある。

**大脇：**

西根（角田市西根地区）のため池について教材化したんですけど、あるお母さんが「ため池なんか何で調べるの」と。地元の大人はあって当然で、地元に対して深い愛情を持っているとは限らない。そこで必要なのが教師の社会教育とか学校教育なんですね。親も地域の歴史はちゃんと残して行かなければならないと思う。

**服部：**

皆さんにお願いしたいのはですね、「私の地域にはこんな隠れた情報がありますよ」「これで教材作ってみたいらどう」「地域にはこんな物知りのお父さんがいてかなり造詣が深いですよ」「私のまちではこのような教材があれば皆さん興味を持ってくれると思いますよ」とか、素材の情報を我々に流していただければ。

**吾妻（大河原町）：**

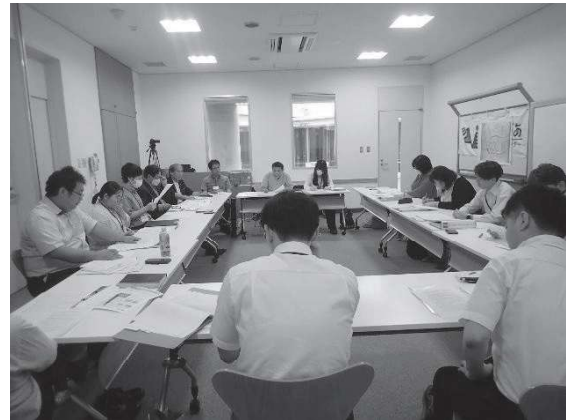
継承に関連する話なんですけれども、熱意のある職員が少ないし固定化もされないという肌感覚があるんですね。行政に期待することや皆さんが求める職員像を聞いてみたいです。

**大脇：**

社教主事さんの中で専門性を持って長い間やっていたといいのではないかなと思う。例えば、お宮さんの木の伐採についてですけども、地域の長老とかそういう方との話し合いがすごく重要になっているんです。前区長さんが、お宮さんを守るために努力していた方なんですけれど、その方が亡くなって地域の関係がガラッと変わって伐採した。社教主事さんが、そういうところまで踏み込むことは非常に大変かもしれないけれど、やっぱり地域を良くするとか変えていくとか、そういう点だとすごく大変な仕事だよ。だから人数を増やして、専門性を持つものになってほしいなと。

**服部：**

我々のほうももっとオープンに「どうなんでしょう」といければと思います。私は行政の方に関してこうしてほしいというのはありませんし、色んな制約がある中で皆さんも動いてますし、連携させていただければなと思っております。



**玉淵（仙南広域）：**

何かをするというよりも自分事として考えていくことが大事なのかなと思います。住民の方々がやりたいことに我々が関心をもたなければうまくいきません。関心をもったうえで、やらせるのではなくやっていただける。実際には一緒にやれなくても一緒にやる気持ちで、相談にきたときには親身に相談に乗るが、実働はできないという認識をお互いに持って距離感を縮めて仕事を進めていくというスタンスが大事です。日々の仕事に追われてしまうと、そういう方が来たときに下を向いたり、挨拶などの対応で、劇場やサービスの質が明らかに違います。そういうスタンスをきちんと担保できていれば、事業の方は後からついてきます。忙しくやっているが、興味を持ってお互いに接することがお互いのためでWin-Winの関係でいられるということは間違いありません。教育は未来を創っていくことに対する投資。今動いていることに対してのみ投じるのは遅れています。志をともにできる方が地域の中にいらっしゃることを再認識した方が良いです。

**服部：**

こうやって研修されていることが素晴らしいです。ぜひ1人で悩まずに社教主事さん方で情報交換していただければと思います。

**荒井（丸森町）：**

以上で本日の座談会を終了させていただきます。ありがとうございました。



# 視聴覚教育のこれからについての提言



## 「視聴覚教育のこれからについての提言」

視聴覚教育は、地域の歴史や文化、日常を映像や音声として記録し、子供から大人までの学習に役立てることができる教育活動である。近年ではICT環境の整備が進み、視聴覚教材の活用や自作教材づくりの可能性が広がっている。

本提言は、研修委員会での議論をもとに、大河原地区における視聴覚教育をどのように発展させるべきかを示したものである。

### 1 学校と地域がより深くつながる視聴覚教育へ

#### ① 授業やクラブ活動、部活動の中に視聴覚教材制作の機会を設けること

地域学習や総合的な学習の時間、あるいはクラブ活動や部活動に視聴覚教材づくりを取り入れることで、子供たちの地域への理解や関心が一層深まる。また、そこで身につけた制作スキルを次の学年へ引き継ぐことで、学校全体で継続的な学習の流れが形成される。

#### ② 地域の大人を巻き込むこと

地域住民や語り部などを招き、視聴覚教材づくりに協力してもらうことで、子供たちは地域の歴史や文化を具体的に学ぶことができ、学習内容に説得力が生まれる。また、地域の大人にとっても、自らの知識や経験を次世代へ伝える機会となり、地域への貢献や子供たちとの交流を通して新たな気づきや誇りを得ることができる。

#### ③ 自作教材を利用しやすい環境づくり

これまでに制作された自作教材をタブレットなどから容易に閲覧できる環境を整えることが重要である。インターネット配信や二次元コードによるアクセスは、そのための有効な手段である。

### 2 映像づくりの文化を次世代へ引き継ぐ

#### ① 誰もが映像制作を体験できる場をつくること

公民館や視聴覚教材センターを拠点として、子供向け・大人向けの視聴覚教材制作ワークショップを開催し、気軽に取り組める環境を整える。

#### ② 教材づくりに関心を持つ人同士のつながりを生むこと

「作りたい人」と「頼みたい人」をつなぐため、簡単に相談や依頼ができる窓口を設けたり、上記のように公民館等で体験会を開催するなどして、マッチングの仕組みを整えることが重要である。こうした仕組みにより、教材づくりのノウハウが地域内で共有され、互いに学び合う関係が生まれるとともに、広く地域で視聴覚教材づくりの文化が広がるのが期待される。

### ③自作教材作品を鑑賞する場を増やすこと

上映の機会を設け、作品を地域住民と共有することで、制作意欲の向上や教材活用の促進につながる。

## 3 視聴覚機材や教材を扱うスキルを組織として高める

### ①個人任せにせず、組織全体でスキルを身につけること

視聴覚教材の活用や機材操作のスキルを安定的に継承するためには、教育委員会、生涯学習担当部局、公民館など、組織として一定のスキルを共有しておくことが必要である。特定の担当者だけに依存しない体制を整えることで、担当者の異動や退職があっても視聴覚教育を継続的に推進でき、安定した支援が可能となる。

### ②組織向け研修の実施

プロジェクターの扱い方や編集ソフトの基本操作、自作教材の作り方など、初心者でも取り組みやすい組織向け研修を実施する。

### ③学校や地域団体への情報提供の強化

新たな教材や機材の貸出情報、研修の案内などを積極的に発信することで、学校や地域団体が視聴覚教育に容易に触れられる環境を整えることができる。継続的に情報を提供することで、活用の機会が増え、地域全体における理解と実践が広がっていく。

## 4 社会教育主事のコーディネート力を生かす

### ①学校と地域をつなぐ役割

社会教育主事が相談窓口となり、学校と地域をつなぐことで、視聴覚教育がより円滑に進む。

### ②教材の活用方法の助言

学校や地域団体に対し、視聴覚教材センター等の協力を得ながら、教材の効果的な使い方や自作教材制作の進め方をアドバイスし、活動を支える役割を果たす。

### ③全国組織と積極的にかかわる

社会教育主事として、「全国視聴覚教育連盟」と積極的にかかわる役割を担い、最新の情報や優れた実践を地域に取り入れることは、地域の視聴覚教育の質を高めるうえで重要である。こうした連携により、学校や公民館等での教材活用や研修に反映され、子どもたちや地域住民の学習機会がより豊かで効果的なものとなる。

おわりに

視聴覚教育は、地域の魅力を記録し、未来に伝える力を持つ重要な教育活動である。本提言は、

- 1 **学校と地域が連携・協働すること**
  
- 2 **視聴覚教材づくりの文化を次世代につなぐこと**
  
- 3 **組織としてスキルを高めること**
  
- 4 **社会教育主事が地域をつなぐ役割を果たすこと**

以上の四つを柱としている。

これらを着実に実行することで、地域における視聴覚教育はさらに充実したものとなり、地域全体の学びを支える大きな力になるものとする。



あとがき



## あとがき

令和5年度に研修委員長を務めさせていただき、その時は丸森町からの研修委員長の就任は20年ぶりということで書かせていただきましたが、今回、早くも2回目の就任となりました。

2回目の研修委員長ということもあり、慣れてきているかと思いましたが、やはり、意見をまとめ、場を回すということは得意とは言い難く、今回も研究協議会・研修委員会の皆様のお力添えで何とか報告書としてまとめることができました。

今回、テーマとした視聴覚教育については、前々から研修委員会のテーマとして扱いたいと思い、研修委員会のテーマ案としては出させていただけっていました。

以前の研修委員会で視聴覚教育をテーマとしてから20年程が経過しており、機材・教材を取り巻く環境が変化していることもありますが、今回の各市町の取り組み状況を確認してみて、視聴覚教育にかかわる事業が少ないという点が気になっていました。

確かに近年は、情報を個人の力で調べ、調べた結果を広めることも容易にできるようになっています。

しかし、調べた情報を編集し、広めていくにはある程度の知識が必要であり、インターネット等で調べられないようなローカルな情報はまだまだ記録化されていないものが多いという課題を感じていたので、今回テーマとして扱い、社会教育主事としてできることを考えられたことは非常に良かったと思えました。

最後になりますが、報告書の発刊にあたり御支援及び御協力を賜りました多くの皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和8年3月

令和7年度大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会  
研修委員長（丸森町社会教育主事）荒井 優作

### 【大河原地区社会教育主事研究協議会】

白石市	*我妻克哉				
角田市	佐藤克宏	*春日優伽			
蔵王町	◇玉手美絵	我妻健太	*小笠原あずさ	梶原一貴	
	成澤大空				
七ヶ宿町	*佐藤深奈美				
大河原町	小野宏	*吾妻晃次			
村田町	*岡本健志				
柴田町	☆高橋秀之	○大宮桃々花	大石恵美	佐伯健太	
川崎町	村上透	*佐藤真菜利			
丸森町	◎荒井優作				
仙南地域広域 行政事務組合	*山田純士				
宮城県大河原 教育事務所	佐藤文則	*佐藤雅俊			

☆協議会長  
◇協議会副会長  
◎研修委員長  
○研修副委員長  
\*研修委員

## 研修委員会のあゆみ【これまでの研修報告書一覧】

No	年度	タイトル	研修代表者		
1	S48	宮城県における父母教師会活動に関する実態 ー調査報告書ー	県教育部長会編, 社会教育主事担当		
2	S49	仙南地域における母親の幼児教育に関する実態 ～3・4歳児を第一子に持つ母親～ 調査報告書	研修班長	白石市 白石市	太齋 享 伏見 光龍
3	S50	乳幼児教育の学習内容の研究 ～学習計画立案のために～	研修班長	白石市	伏見 光龍
4	S51	文化財保護行政をすすめるために	研修班長	丸森町	阿部 義郎
5	S52	生涯教育を推進するために	研修班長	川崎町	高山 恵弘
6	S53 S54	大河原教育事務所管内社会教育30年のあゆみ ～住民のこころに灯をともして～	研修班長	角田市 七ヶ宿町	咲間 庄三 根元 邦美
7	S55	学習プログラムの立案(婦人学級・高齢者教室・家庭教育学級)	研修班長	七ヶ宿町	根元 邦美
8	S56	青少年及び親の意識 調査報告書	研修班長	柴田町	澁谷 孝之
9	S57	社会教育推進上の諸問題と社会教育主事の果たす役割 ～教育委員会と公民館のあり方を中心として～	研修班長	角田市	齋藤 久
10	S58	社会教育における学習内容を充実させるための工夫 ～視聴覚教材の効果的な活用をとおして～	研修班長	川崎町	大宮 昭
11	S59	少年教育の充実をめざして ～管内における現状と課題～	研修班長	白石市	佐藤 重仁
12	S60	青年教育の充実をめざして・I ー青年活動の実態ー	研修班長	丸森町	鈴木 悦郎
13	S61	青年教育の充実をめざして・II 「青年の生活意識と余暇活動についての調査」報告書	研修班長	村田町	高橋 徳夫
14	S62	青年教育の充実をめざして・III ー青年教育事業の進め方を考えるー	研修班長	角田市	大友 喜助
15	S63	スポーツ人口の拡大を図る一方策 高齢者向けニュースポーツの開発を通して	研修班長	大河原町	佐々木寿信
16	H元	スポーツ人口の拡大を図る一方策II 高齢者向けニュースポーツの普及を通して	研修班長	角田市	太田 文夫
17	H2	大河原教育事務所管内社会教育40年のあゆみ 新しい学習社会への架け橋	研修委員長	丸森町	岡崎 勝志
18	H3	生涯学習の鼓動 青年・家庭・高齢者教育の充実をめざして	研修委員長	村田町	高橋 定光
19	H4	生涯学習の鼓動part2 成人・少年・婦人教育の充実をめざして	研修委員長	大河原町	尾形 彰
20	H5	学校週5日制と社会教育のあり方	研修委員長	川崎町	小林 志郎
21	H6	青年教育の充実をめざして・IV ー昭和61年度調査結果との比較・考察を通してー	研修委員長	蔵王町	日下 朝男
22	H7	生涯学習のまちづくりをめざして 生涯学習推進の現状と課題	研修委員長	村田町	山家 孝弘
23	H8	生涯学習の課題と展望 学社連携をめざして	研修委員長	白石市	小野 輝彦
24	H9	生涯学習の課題と展望 学社連携から学社融合へ	研修委員長	村田町	山家 孝弘
25	H10	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざして	研修委員長	蔵王町	砂金 毅
26	H11	生涯学習の課題と展望 よりよい公民館活動をめざしてII ～公民館入門ーつどう・まなぶ・つながる～	研修委員長	大河原町	八島 良隆
27	H12	大河原教育事務所管内社会教育50年のあゆみ 新世紀・きえない虹をおいにかけて	研修委員長	白石市	村上 忠敏
28	H13	学社融合の課題と展望 総合的な学習の時間における社会教育のアプローチ	研修委員長	七ヶ宿町	伊藤 貴子
29	H14	学社融合の課題と展望 学校教育と社会教育の協働をめざして	研修委員長	丸森町	菊地 浩二
30	H15	学社融合へのアプローチ 知って得する！文化財・その活用法	研修委員長	丸森町	伊藤 博道

No	年度	タイトル	研修代表者		
31	H16	ヤング・エボリューション ～青年の意識調査をとおして、今の青年たちを考える～	研修委員長	大河原町	小野 宏
32	H17	ヤング・エボリューションⅡ ～青年教育の活性化をめざして～	研修委員長	村田町	鎌田 浩孝
33	H18	動き出した次世代育成支援 ～これからの子育て支援の在り方を考える～	研修委員長	七ヶ宿町	高橋慎太郎
34	H19	時代を映してきた視聴覚教育 ～使ってみよう自作視聴覚教材～	研修委員長	角田市	八島 利美
35	H20	がんばってます！ジュニア・リーダー ～過去 現在 そして未来へ～	研修委員長	川崎町	村上 透
36	H21	生涯スポーツの振興をめざして ～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～	研修委員長	柴田町	大川原真一
37	H22	生涯スポーツの振興をめざして vol.Ⅱ ～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～	研修委員長	白石市	小室 徹彦
38	H23	大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ ～変わり続ける時代を生きる～	研修委員長	角田市	大内 克典
39	H24	協働教育推進へのアプローチ ～各市町の実践から見えたもの～	研修委員長	川崎町	富田 丈靖
40	H25	これからの成人・高齢者教育を考える ～地域活動と学習に関する意識調査～	研修委員長	柴田町	加藤 栄一
41	H26	これからの成人・高齢者教育を考えるⅡ ～住民とともに豊かな学びをめざして～	研修委員長	大河原町	伊藤 敏之
42	H27	子育て・家庭教育支援の充実をめざして ～手と手をつなぐみんなのチカラ～	研修委員長	柴田町	木村 正人
43	H28	未来に伝えよう！地域の文化財 ～社会教育的視点からのアプローチ～	研修委員長	川崎町	佐藤伸一郎
44	H29	元気な地域づくりをめざして ～青少年の地域活動に関する意識調査～	研修委員長	七ヶ宿町	小掠 政光
45	H30	元気な地域づくりをめざしてⅡ ～新時代へつながる地域活動とは～	研修委員長	村田町	岡本 健志
46	R元	集まれ公民館！開け学びの扉！ ～令和の社会教育施設を考える～	研修委員長	角田市	齋藤 史織
47	R2	これからの社会教育の本質を考える ～持続可能な地域づくりをめざして～	研修委員長	白石市	森 健光
48	R3	大河原教育事務所管内社会教育70年のあゆみ	研修委員長	大河原町	吾妻 晃次
49	R4	元気な団体の秘訣を探る～元気に活動する2つの団体の調査をとおして～	研修委員長	柴田町	渡辺 光
50	R5	社会教育主事に求められる能力とは～ファシリテーション研修・実践を通して～	研修委員長	丸森町	荒井 優作
51	R6	障害を持つ人の生涯学習支援の在り方について	研修委員長	七ヶ宿町	佐藤深奈美
52	R7	視聴覚教育のこれから～学校や地域社会への活用を考える～	研修委員長	丸森町	荒井 優作

研修報告書 第52号

## 視聴覚教育のこれから

～学校や地域社会への活用を考える～

令和8年3月31日発行

編集／大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

発行／大河原地区社会教育主事研究協議会

印刷／株式会社 津田印刷